

## 委員会視察報告書

委員会名	議会広報広聴常任委員会
------	-------------

視察地	群馬県太田市
調査項目	若い世代の投票率向上へ生徒と市議会議員との意見交換会
調査目的	太田市議会の若い世代との意見交換会の取組事例を調査し、今後開催予定の本市議会における大学生との意見交換会へつなげる。
日時	令和7（2025）年8月26日（火）午前10時～午前11時30分
場所	太田市役所
調査概要	<p>【若い世代との意見交換会 投票率向上と市民の関心を高めるために】</p> <p>(1) 若者との意見交換会開催までの経緯について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田市の投票率の現状が、群馬県内 12 市で最下位。直近の市議会議員選挙で 38.49%。県内で投票率が 40%を下回っているのは太田市のみ（他市は 40～50%台）。ここ 10 年で 15 ポイント投票率が下がり続けているという現状を課題と捉えた。</li> <li>・特に 10～30 代の投票率が低く、若者が政治に興味・関心がないことで、若者の声が政策立案に結びつかず、その結果、若者に対する政策が減り、魅力のないまちへつながってしまうという認識が若者に不足している。</li> <li>・そこで、若者と議会との意見交換を通して、若者と議員との交流を図りながら市政を身近に感じてもらい、主体的に市政に参加することで、実際に政策に反映される可能性があると実感してほしいことから意見交換会を開催した。</li> </ul> <p>(2) 意見交換会の概要について</p> <p>&lt;参加校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田高校（市立）：地域に根差した高校。毎年開催。</li> <li>・関東学院大学（私立）：経済・経営学科の学生が参加。経済に強い学生からの意見を期待。</li> <li>・ぐんま国際アカデミー（私立）：英語教育特区の小中高の一貫校。中高生が参加。外国人労働者の多い太田市としてグローバルな視点からの意見を期待。</li> </ul> <p>&lt;意見交換会の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施頻度：年 1～2 回／参加人数：15～25 名程度。</li> <li>・議会改革推進特別委員：8 名。議員 2 名ずつが 4 グループに分かれ、</li> </ul>

- 議員一人がリーダーとしてファシリテートし学生の声を引き出す。
- ・1 グループ 6～8 人程度の小グループに分けることで、意見が出やすく、一人一人が十分発言でき、親密なコミュニケーションがしやすく、深い議論となることをねらった。
  - ・開催人数が数名の時もあったが、少ないことで盛り上がり、充実した内容となった。

### (3) 市民との意見交換会について

- ・平成25年度は、180名参加という記録がある。しかし、これをピークに参加者の減少とメンバーの固定化がみられ、平成30年には、参加者が60代以上で、若者がいないという現状だった。
- ・これまで、市民と議員が対面式で、一方的に市政報告をした後に、市民からの質問に答えるという形式で意見交換ではなかった。
- ・コロナ禍で3年間、報告会が中止となった。その間に、開催方法を検討し、グループディスカッション形式、市民と議員が同じ目線で建設的な意見交換ができるように変更した。
- ・平日夜の開催から、土曜の日中に開催することで、20～30代の子育て世代や大学生も参加するようになった。
- ・しかし、10代の参加者がいない。教育機関を使って呼び掛けるが学生が自ら手を上げ参加するまでには至らず、若者とだけの意見交換会開催の検討を開始することとなった。

### (4) 若者との意見交換会開催までの流れと開催概要

- ・学校との調整は事務局が行い、テーマは議員が決定した。
- ・市立の太田高校と開催し、2回目からは具体的なテーマで開催。
- ・まずはスライドを用いて、「市議会って何?」と議員の紹介を行いながら、身近に感じてもらうように工夫し、アイスブレイクを入れることで、和やかな雰囲気で話し合いができた。
- ・当初はディスカッションが45分間だったが、60分に伸ばした。グループの盛り上がり具合で多少時間を延ばすこともある。

### (5) 効果及び課題

#### <効果>

- ・議員を身近に感じたとの声が多かった。議員が市民の中へ入っていくことが必要と再認識した。

#### <課題>

- ・出された意見をどのように市政へ生かすかが課題。今後は、議会改革推進特別委員会で具体的な取組へつなげていく。

視察の様子	 <p>(委員会室での説明) (議場)</p>
質疑応答	<p><b>質問1</b> 議会が小・中学校へ出向いて主権者教育などの授業など行っているか。</p> <p><b>回答1</b> 特に行っていない。市立高校の政治に関する学習で議員の意見を聴きたいとの依頼があり、特別委員会で対応した事例はある。</p> <p><b>質問2</b> 柏崎市議会では、意見交換会において私見を挿まず発言するとのルールがあるが、太田市議会議員はどのような態度で臨んでいるのか。</p> <p><b>回答2</b> ルールで明文化されたものはない。まずは、議員の仕事を説明し、どういう役割があるかをスライドで伝えてから意見交換を行っている。グループリーダーがうまくまとめて話を聴いている。</p> <p><b>質問3</b> ファシリテーターの進め方が難しいと感じるが、研修などの工夫点は。</p> <p><b>回答3</b> 研修は特に行ってないが、市民との意見交換会をグループディスカッション形式で行っているので、その場で年配者がまとめ役をしている姿を若い議員がみて学んでいる。</p> <p><b>質問4</b> 市立の学校とは話を進めやすいと感じるが、私立学校との交渉での工夫点は。</p> <p><b>回答4</b> ぐんま国際アカデミーは、英語特区で太田市とのつながりがあり、関東学院大学には、地方創生を扱うゼミから市長部局へ講演依頼が多くあるので、話をしやすい素地があった。議員の母校である私立常盤高校からは快諾いただいた。どの学校も、政治に関心のある方が多く、お願ひしてもポジティブな反応が多いという印象である。</p> <p><b>質問5</b> 若者との意見交換会と市民との意見交換会との違いは。</p> <p><b>回答5</b> 市民との意見交換会では、全議員が参加し、4つの常任委員会に分かれ、それぞれの委員会のテーマで意見交換を開催する。若者との意見交換会は、議会改革推進特別委員会の議員が担当し、部屋は分けて、にぎやかな雰囲気で開催している。</p> <p><b>質問6</b> 若者への市議会の説明で使っているスライドの内容は。</p> <p><b>回答6</b> 市議会とは？ 国会議員と市議会議員の違いは？ 市長と市議会の役割の違いは？など、市議会議員がどんな仕事をしているか知ってもらえるような内容と、太田市議会の取組についてなどを分かり</p>

	<p>やすく伝える内容となっている。</p> <p><b>質問7</b> 大きな部屋でのグループディスカッションは、隣のグループの声が聞こえて気になると言われるが、太田市議会での工夫点は。</p> <p><b>回答7</b> 若者からは、気になるとの声ではなく、にぎやかな方が盛り上がりについて意見を言いやすいとの声がある。逆に、一般と意見交換会ではうるさいとの声があり、グループごとに部屋を分けていている。</p> <p><b>質問8</b> 服装などの工夫点は。</p> <p><b>回答8</b> 高校生は、大人と話すというだけで緊張し、高校生だけの方が意見も出やすないと感じる。議員と学生が同じ目線で、口の字型になって話しやすくしている。服装は、通年クールビズなのでノーネクタイで、ポロシャツの議員もいる。</p> <p><b>質問9</b> 大学のゼミの授業で一般質問を傍聴したとの記事を拝見したが、どのような経緯があったのか。</p> <p><b>回答9</b> 議会での議論はなく、個人的に議員とゼミの教授が知り合ったと伺っている。</p> <p><b>質問10</b> 議会だよりの作成者は。</p> <p><b>回答10</b> 議会だよりは、事務局が原稿案を作成し、議会運営委員会へ諮り、承認いただいている。</p> <p><b>質問11</b> 意見交換会後の取りまとめは。</p> <p><b>回答11</b> 若者との意見交換会は、報告書としてまとめ、検討資料としての取り扱い。ホームページでは公表はしていない。一般市民との意見交換会は、委員会ごとに報告書を作成し、ホームページへの公表はしていない。</p> <p><b>質問12</b> 今後の広聴活動の発展はどのように考えているか。</p> <p><b>回答12</b> ぐんま国際アカデミーは中学生もいるが、中学生に特化した取組には至っていない。高校や大学との意見交換会をはじめ、試行錯誤中であり、中学生との意見交換会を開催する場合には、教育委員会との調整も今後は必要と考えている。出された意見を基に、政策研究会を作ろうという動きはある。今後も、広聴全体を広げていきたいと考えている。</p>
委員会所感	<p><b>【田邊委員長】</b> 太田市では高校生と投票率の向上について意見交換会している。運用、実施方法など詳細に説明いただき勉強になった。学生との意見交換の際に、議会の役割をしっかり説明した上で、個別意見が出た場合でも寄り添いながら議員の立ち位置を理解してもらえるように話をしているとのことで、非常に参考になった。 本委員会でも若い世代との意見交換を今後していきたいと考えるため、今回の視察で学んできたことをしっかりと生かせるようにしていきたい。</p> <p><b>【山崎副委員長】</b></p>

太田市議会において若い世代との意見交換会の主な目的は38.49%まで下がった投票率の向上にあり、太田市内にある市立高校、私立中高等部、大学との連携で、学生自身が自発的に参加することのハードルを下げる工夫がされていることがわかった。

市立太田高校生との意見交換会は太田市議会議会改革推進特別委員会が主催し、議員がファシリテーター役を行いグループワークの進行と活性化を行う姿勢や、学生が話しやすい環境づくりの手法について確認することができた。

#### 【池野委員】

太田市では、投票率が群馬県内12市で最下位という現状があり、どうにかしたいとの思いで、若者の政治参加の促進や市政への関心を高めるため、若者との意見交換会の開催を検討した経緯がある。意見交換会の開催に当たっては、机を口の字型とし、各グループに議員2名ずつ配置し、少人数で話がしやすい工夫をしていた。若者は大人の中では、意見を言いづらいが、同じ世代の中では活発に意見が出やすいとのことであった。ディスカッションでは、若者らしく、それは予算内では難しい要望も出るが、話は否定せず傾聴し、「大変だね」など寄り添う姿勢で臨んでいるとのことであった。そもそも、「市議会は何をしているか分からない」との声も多く、最初に、スライドを活用し市議会とは?という説明をしてからディスカッションしているのはとても参考になったので、柏崎市議会でも取り入れていきたい。

#### 【近藤委員】

太田市議会では著しい投票率の低下を課題として捉え、若者の政治参加促進により投票率の向上を図り、市政への関心を高めることを目的に、市立高校、私立大学、私立中高一貫校との意見交換会を行っている。意見交換会実施の背景にある「投票率が低下し続ければ、若い世代の声は政治に反映されず、さらに政治への関心が薄れる負のスパイラルを生み、将来的に民主主義の健全な機能が失われる」との危機感は、柏崎市議会においても共有すべき認識だと感じた。

具体的な手法として、既存のつながりを軸にした対象校へのアプローチや、議会・議員の役割や立ち位置を明確にした上で、若者がフラットに話せる環境・雰囲気の中で意見交換会を行っていることを伺い、目的と課題を明確に持ち、柔軟に進めている姿勢に感銘を受けた。

柏崎市議会が「若い世代との意見交換会」という新たな試みを行っており、これまでのやり方を検証し、必要に応じて見直しながら、議会広報広聴常任委員会としての機能を生かして進めたいと思う。

#### 【山本委員】

大田市議会では2012年から議会基本条例に基づき毎年度議会報告会が行われてきたが、コロナ禍での3年間の開催中止期間を経て、2022年から議会報告会の開催方法を見直し、市民との意見交換を中心としたグループディスカッション形式での開催に変更したこと。20

23年から議会改革推進特別委員会での検討過程において、若者との対話の必要性を議論し、同年10月に市立太田高校と意見交換を実施し、その後、関東学園大学、ぐんま国際アカデミーと意見交換会を実施したことであった。担当者の説明では、意見交換会開催後の若者の反応、成果及び課題については、「市議会への理解が高まった」、「市議会をより身近に感じることができた」、「もっと意見交換の機会を増やして欲しい」などの反応があったとのこと。今回の視察で柏崎市議会でも共通した課題を感じ、やはり議員が外に出ていき、若者をはじめとする市民の中に入していくことが重要であることを再認識させられた。

【西川委員】

若者との意見交換会については、太田市の投票率が県内12市中最下位という課題を捉え、若者の政治参加促進・投票率向上・市政への関心を高める目的で取組が始まった。若者へ焦点を当てたこと、そして対象となる学校の特徴を捉えた展開内容となっていること、一般世代の意見交換会とすみわけができるていることなど、実施までの経緯と運営について具体的に理解できた。

今後の展開次第では若者世代の取組の効果を一般世代へも回し、相乗効果も得られると感じた。柏崎市でも参考にしていきたい。

【持田委員】

- ・資料を見る限り投票率の低さはただごとでない。市議会議員選挙ですら40%以下は驚き。深刻な実態として捉えているが、国政はどうなのか。

- ・意見交換会は何のために行うのか。様々な角度から検討されていると思う。

- ・課題として、ある意味結論として、「地道な活動ではあるが、議員が外に出ていき、若者をはじめ市民の中に入していくことが重要であることを再認識」とされていること。

- ・意見交換会が身近な暮らしとの関係、予算と暮らしとの関係、具体的な意見が市政にどのように反映しているのか、成果をしっかりと返すことも重要と感じた。

- ・太田市の機構図を資料としていただき、大いに参考になりました。

【重野委員】

太田市は広聴活動として2つ、議会報告会と高校生との意見交換会を実施している。ただ、現在の高校生との意見交換会は投票率向上を目的と掲げての取組のため、柏崎が考えていることとやや異なっているようだが、今後その目的も検討しながら対象を拡充していくことも考えていよいに受け止めた。また、太田市の人口に占める外国人の割合は10%を超えるとのこと。このことによる市民生活の課題も少なからずあるようで、こういう視点からの意見交換も行われるのかもしれませんと感じた。地域ごとに様々な課題があるだけに、市民と議会の意見交換の在り方をより深く考える機会になった。

**【三宮委員】**

若い世代の投票率向上に向けた生徒、学生と市議会議員との意見交換について説明をいただいた。太田市においては平成23年から令和5年までの4回の市議会議員選挙の投票率が低下し、直近の令和5年では38.49%、近隣12市で最低の投票率であった。これに危機感を持ち、若い世代との意見交換会を開始した。意見交換会で得た意見は、議会改革推進特別委員会で投票率向上の議論の材料になっているが、公開やフィードバックはしていない、投票率向上に繋がっているかは、次回の選挙で確認することだった。つまり意見交換会の評価指標を投票率にしているということである。

若者の政治離れが課題とされ、柏崎市議会でも今秋には市内2大学との意見交換会を予定している。今まで、柏崎市議会でも市民の声を政策検討や議会活動に生かすことを念頭に議会報告会や意見交換会を行ってきたと思う。このことは正しく持ち続けたいが、投票率という民意の総意を評価指標にすることも一考ではないか。

**【相澤委員】**

柏崎市議会における市民との意見交換会でのもう一つの課題認識は「従来の開催方法では、議員の負担が多い」であった。

この度の視察において、直接的にはこの課題に対する視察内容ではないが、太田市議会では全議員が全てに対応するのではなく、限られたメンバーで対応（若い世代への対応は議会改革推進特別委員会メンバー）がされており、新しいことを進めていくには、大所帯からではなく、ペースステップ、小人数対応もありではないか感じた。

**【春川委員】**

太田市の市議選の投票率が、県内12市のなかで最下位38.49%と年々減少している。平成23年の投票率は53.05%であったが、令和5年では約15ポイント減となるまで落ち込んでいることから、意見交換会を開催し、若者の政治離れの改善に取り組むこととなった。そこで、市立太田高校や関東学園大学、ぐんま国際アカデミー（学内は基本的に英語で授業）での意見交換を実施している。テーマは、若者の投票率の向上や議会への興味、関心を高める取組についてである。参加者は4グループに分け、各テーブル各6~8名とし、意見を出しやすい雰囲気をファシリテーターが一翼を担って誘導することが重要である。議員の服装は、ノーネクタイ、軽装。学生が主体の時は、会場は同じフロアとし、にぎわいを感じながらの方が話しやすいとのことであった。一般世代の市民が主体の時は、班ごとに部屋を分ける要望があるとのことである。参加者は近年、同じ人が参加し、マンネリ化して参加者が減少傾向にあるとのことであった。柏崎市議も学生との意見交換会では、意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけ、開催したい。